



松平家室

六

~~P
273
6~~

逍遙文庫
文庫6
1293
6



法本寫寶錄六之卷目錄

晏平仲楚圍小使つひとあ辱をしめる事也也

晏子之御者妻與あ之をあてて生か成り得る也也

吳王圖あ圖を使し孫そん子ごん長ちやう女にょ兵へいとあ操そうりしる事也也

吳王あ文ぶん差さとあ為を放はな八はち系けい以を遊あそぶ事也也

孔子生あ智ち孫そん實じつとあ辯べんとあらる事也

并あ顔げん回かいの仁にん廣くわう節せつとあ改かむ事也也

智伯ちの臣しん豫よ讓じやう讓じやうとあ欲よく報ほうむ事也也



寫寶錄六

孫臏法術之終一強盜伏之圖
孫臏魏之車て兩之折る也
孫臏以策馬陵之に弟弩射雁清也
蔣相如秦以女とる圖

并下和り魏光徳の事

秦王と趙王會涪池とる也

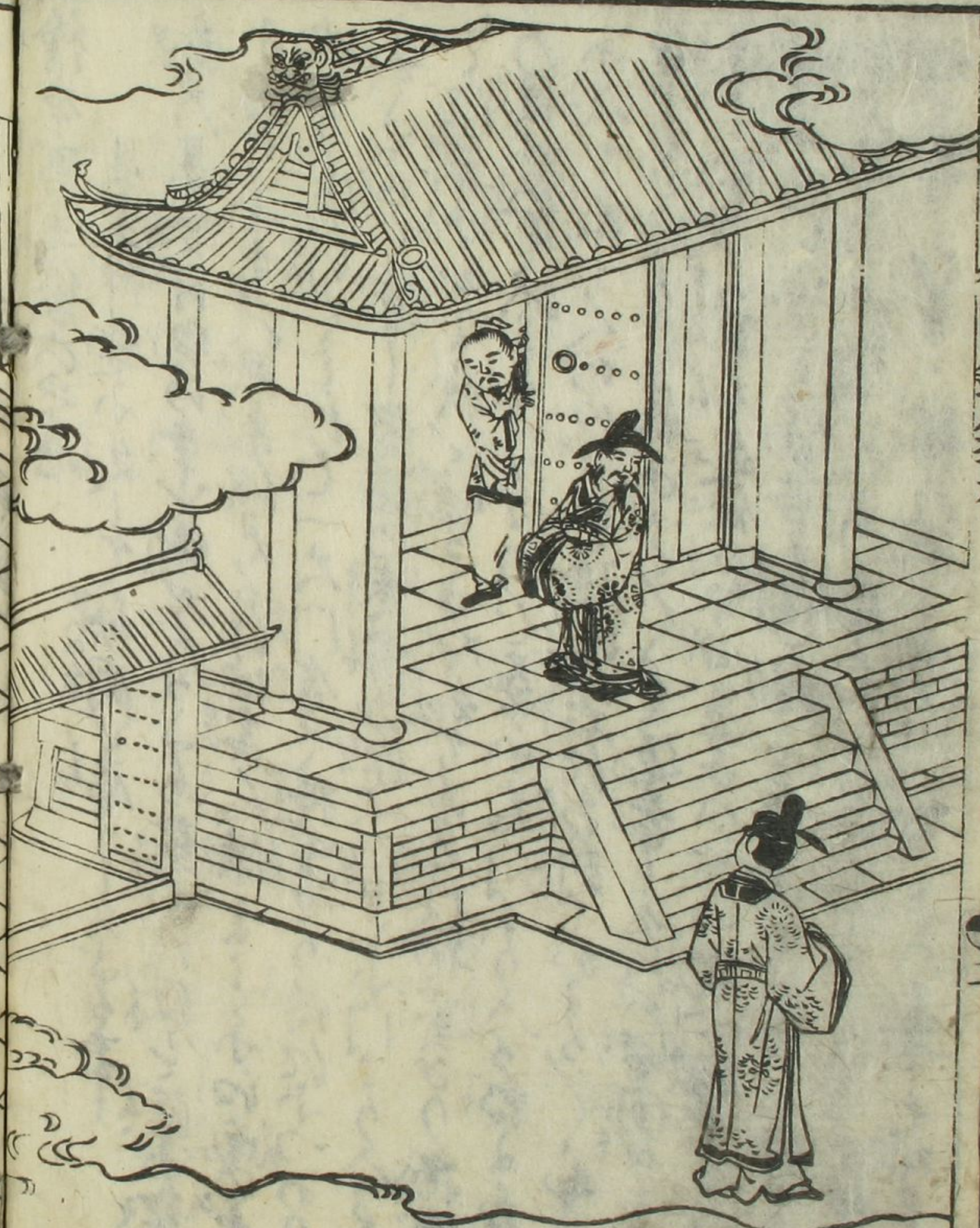
蔣相如意頗る來と見く車伏避る也

繪本寫宝袋六之卷

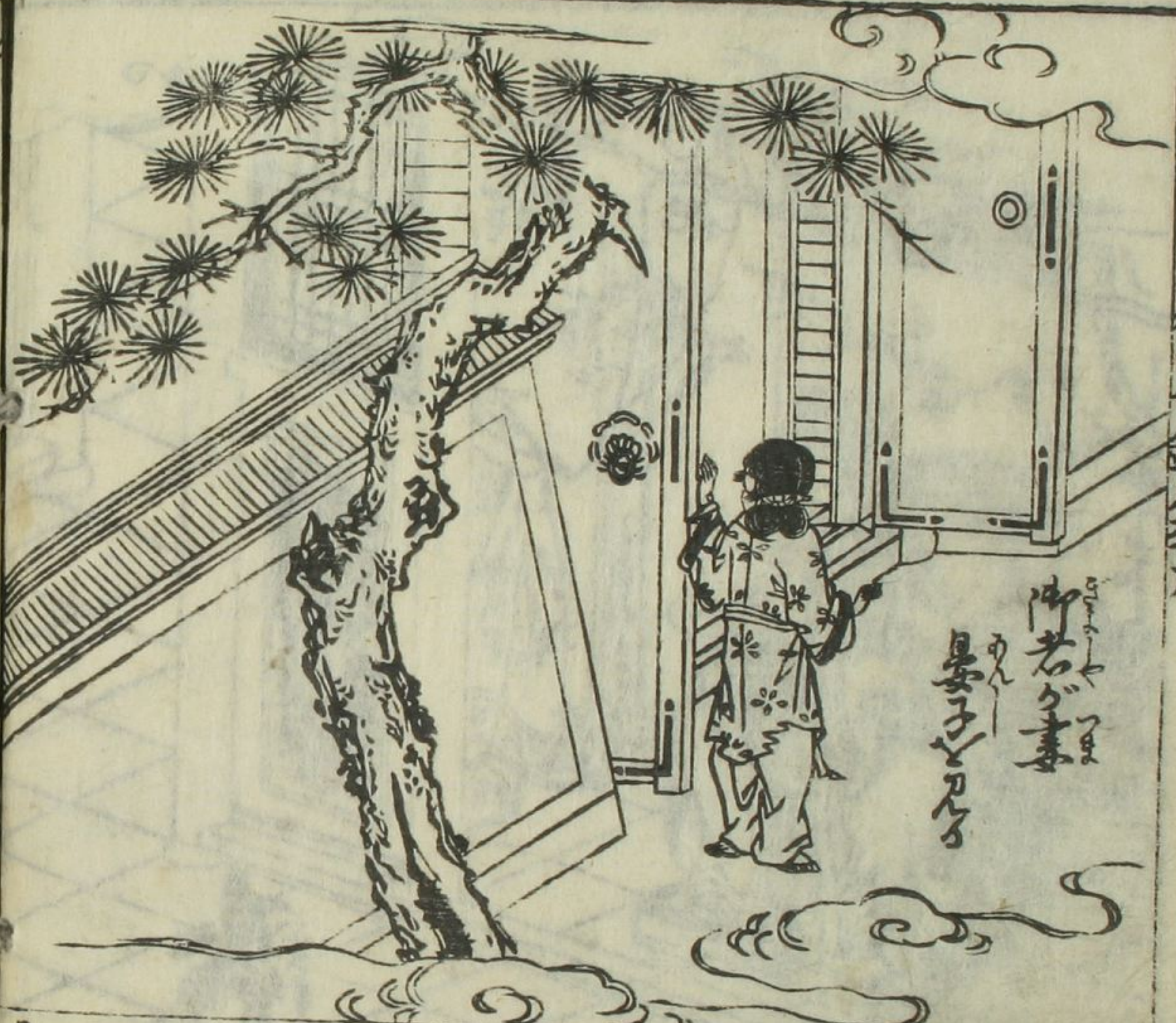
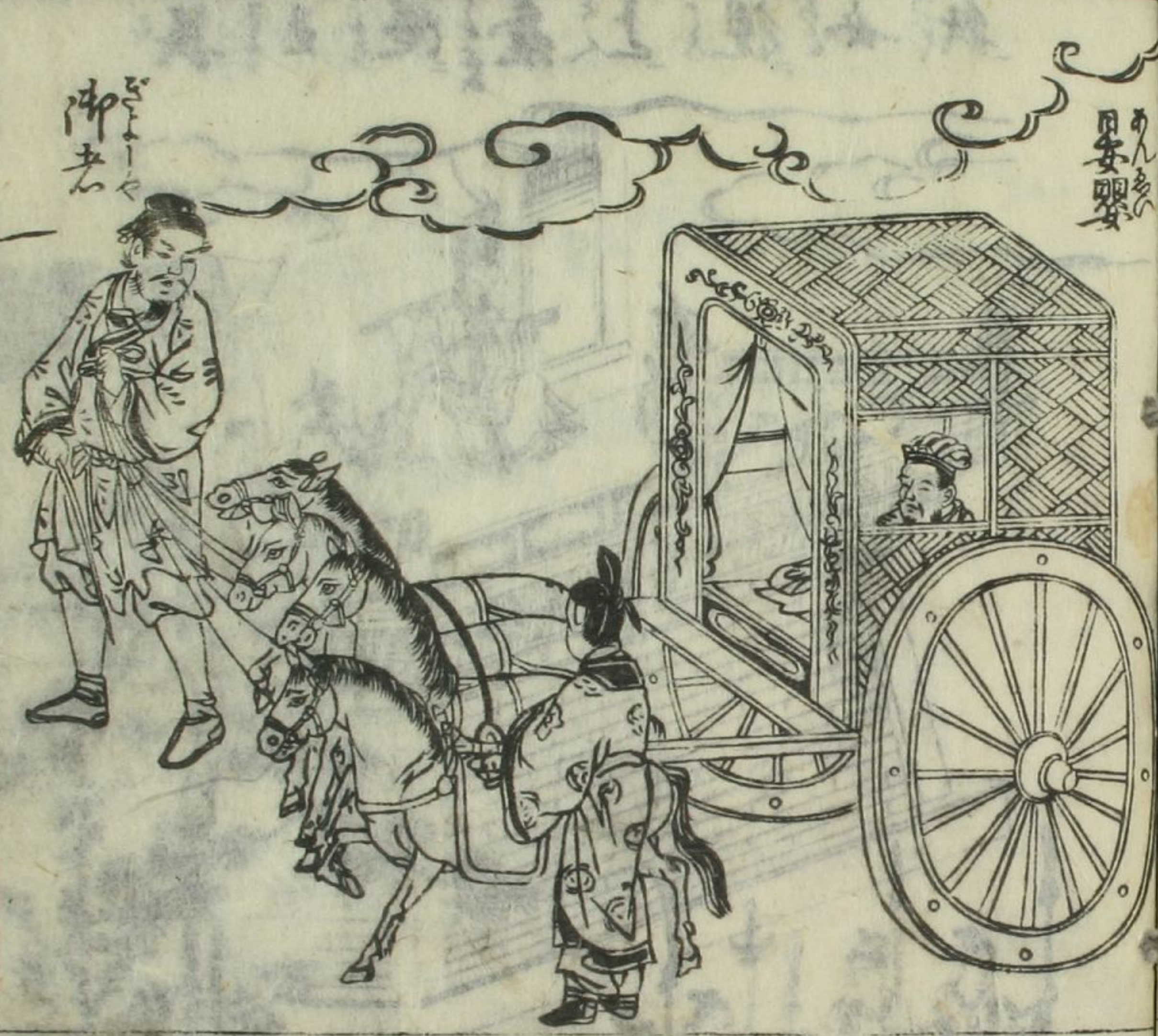
晏平仲楚小父とて無國と辱る事
齊乃晏嬰尉室の事と謝せんがこめ楚王に役と成小楚
小父とて中此風系成るん地無人傑まこ小江南の美
地より進りてこれと一大門有て掩りせり傍に小つあり
甚く密く縋一楚國の奏者出途とて小門より入ん
とて晏子に我と怪る事と知て自らは物室より物圖
乃使汝汝を入るといひかれと楚小大門より入る節も亦
小及で數十人の儒臣儒士た右にお列てかまらなくあそ
びて居りてとて晏子とて通言とて楚國の賢士何ぞとて
返く楚の軍を走使志とて曰晏子の無の賢士何ぞとて
怪る事とて靈王に見る王橋と揚小晏子はたに食と楚王奈
笑ふ晏子の白居とて果と賜小利橋掛別とて云つと楚人
敢て辱しむるは遂は聘礼とぬめ晏子と宴して成る事



卷之六



卷之六



御者 晏子
 晏子の御者
 乃ち代云のれりて
 御者大なり知てそれ
 より柳様々なる晏子
 の中にてこれと宣
 へ御者ありのまうい
 かる晏子仲大なる
 感じ違へりてあて
 をまといふり
 晏子姓の晏子
 字の平仲新乃の
 相配なり

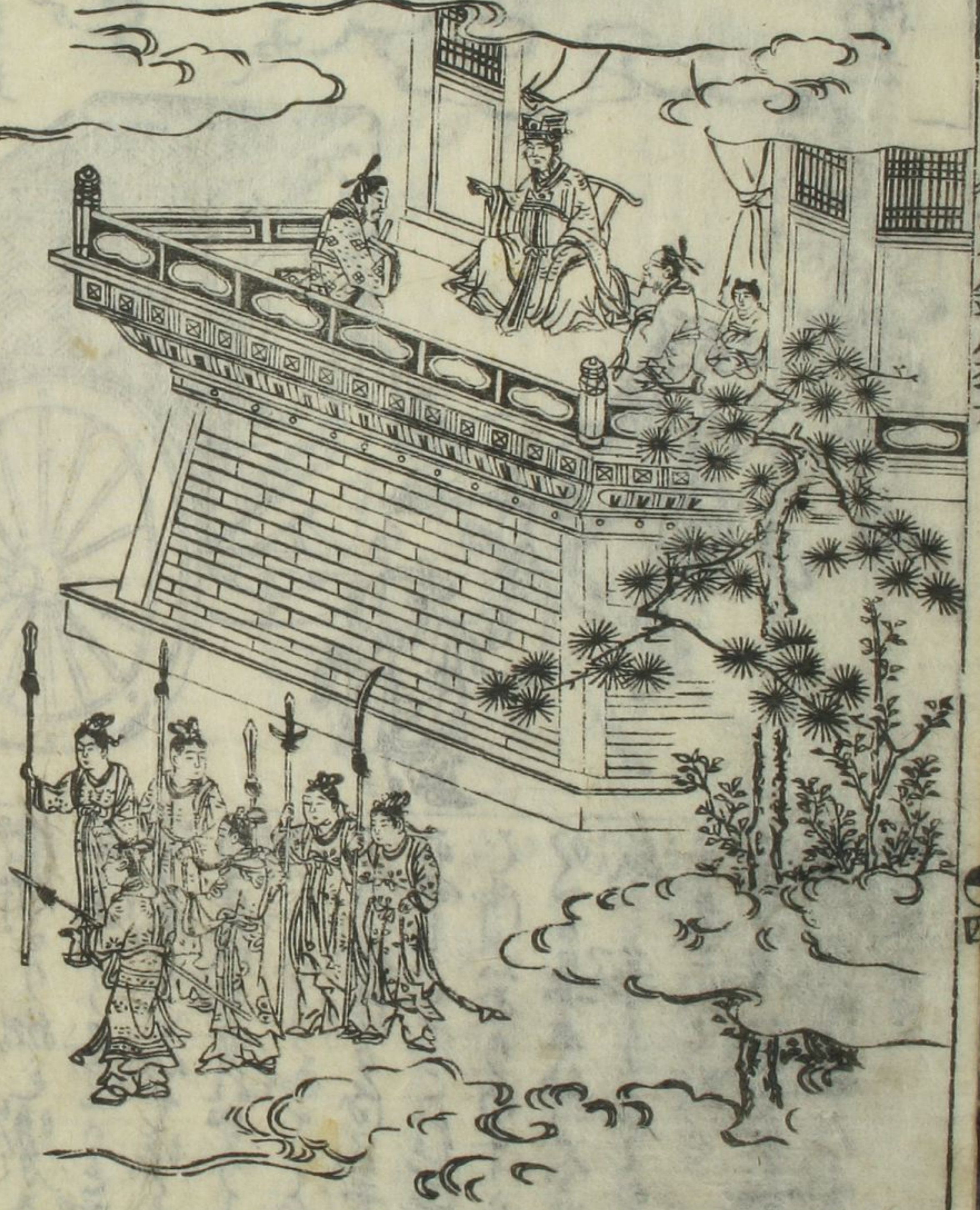
晏子仲一目出候時
 その車と御者との高
 門の間より
 りれど
 轎に御馬を乗せら
 らし氣揚々として
 ぬさの横より
 しと晏子仲大なる
 去る候御者との
 晏子と同一の目
 晏子の長足は
 られしを晏子仲大
 の相なり候は
 候に違はらり今日
 まあはれし御者

孫不武女紅の標川



二妃の法小育中
孫子武の折

呉王の延上親の女紅



孫子武の折

五

孫子武の折

五

吳王夫差與西施遊八景

吳王夫差越之過へ少安して姑蘇臺建く遊覽は
伯の子の墓に之を百二里と令て寛さ六十人を客として樂に
彫り楠子畫を柱に金に一探干と玉を一夜六英
草美と楹一れ多款とねら遊少所にて意を小
環じ庄とる舟と浮ふたは香水溪あり舟小百花例の
四時若入香ふふ子終じい基二年の故と積又年の力
あのあて終にり玉月にい是もあてあてあと小教十花美
女成産の例に列と終舞一時小西旅を身一とり美
貌といひ甲一玉を寵愛后妃小携る又雲岑山に西旅河
と築こと院池と再探香径と釋と碧泉井と製備婦交
沈迷西旅と手一妃嬪とそ茶後と擁しめ八景に遊ふ始蘇
臺百花例香水溪西旅河沈迷池
探香徑泉井波婦交婦交婦交
亭に遊ふ小酒宴との樹一過每小款香春の四方に百也

とづろの花乃枝と折而教が繁と採と日月朝小百花叢の
下に之の孤花の貌汁子小親して子貌乃香り教とると
知じと夜の教多るの船一蕭鼓と載而旅とたに香水溪小遊と
賞し一宮女小蓮波採しび而教を蓮花とらんとて供とく
溪小弱る一宮女ありと水に入て投起一王とらうと舟中に
抱へて曰く西教が小弱るありとぬる花汁水に流がれ
一と又溪小白珠と布法ありとく西教とた小活し秋を
一雨教と共雲岑山と登りお涼成らう子波婦交とも一處
層敷秋舞後法一冬の霜の如雪に表し西旅とた小瓶の
香とと衣と數十に宮女一と車といし一め掃者ともたらぬはい
吳王政事と理と畫表酒宴淫樂試をしる一國政とも
荒り小子背表章と具して儀ひとし金く納る小子音
出く教して曰吳の末樂討が世のお一安そも亡びさるえん
中に後遂と越王勾踐のこめ小滅されたり



西松洞遊記
吳王与西松洞
遊記



西松洞遊記

先聖
仲尼
五十二
子路
子貢
子夏
子張
子游



孔子
子路
子貢
子夏
子張
子游



楚王の使老翁本
孔子子見也



楚王の使老翁本

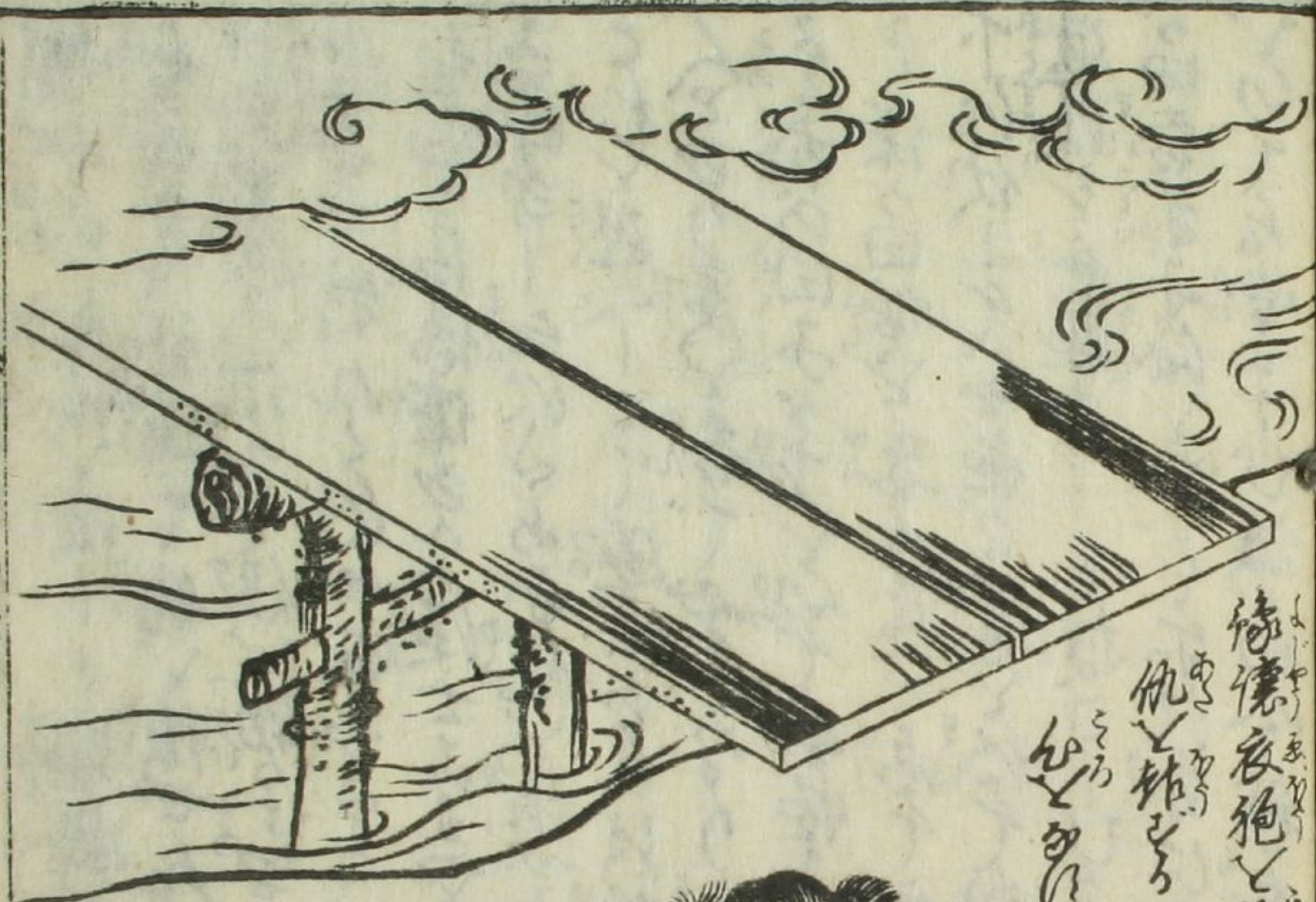


卷之六

卷之六

五

九



徳徳衣袍と術てま君の
仇と地まろ
知とる



趙を拒絶の衣袍
既く海濱ふふ

集金



山崎闇斎



孫子兵法の
独狐の
二城の

孫子兵法

十七



寫真卷六

十六



羅大將龐涓

羅金佐

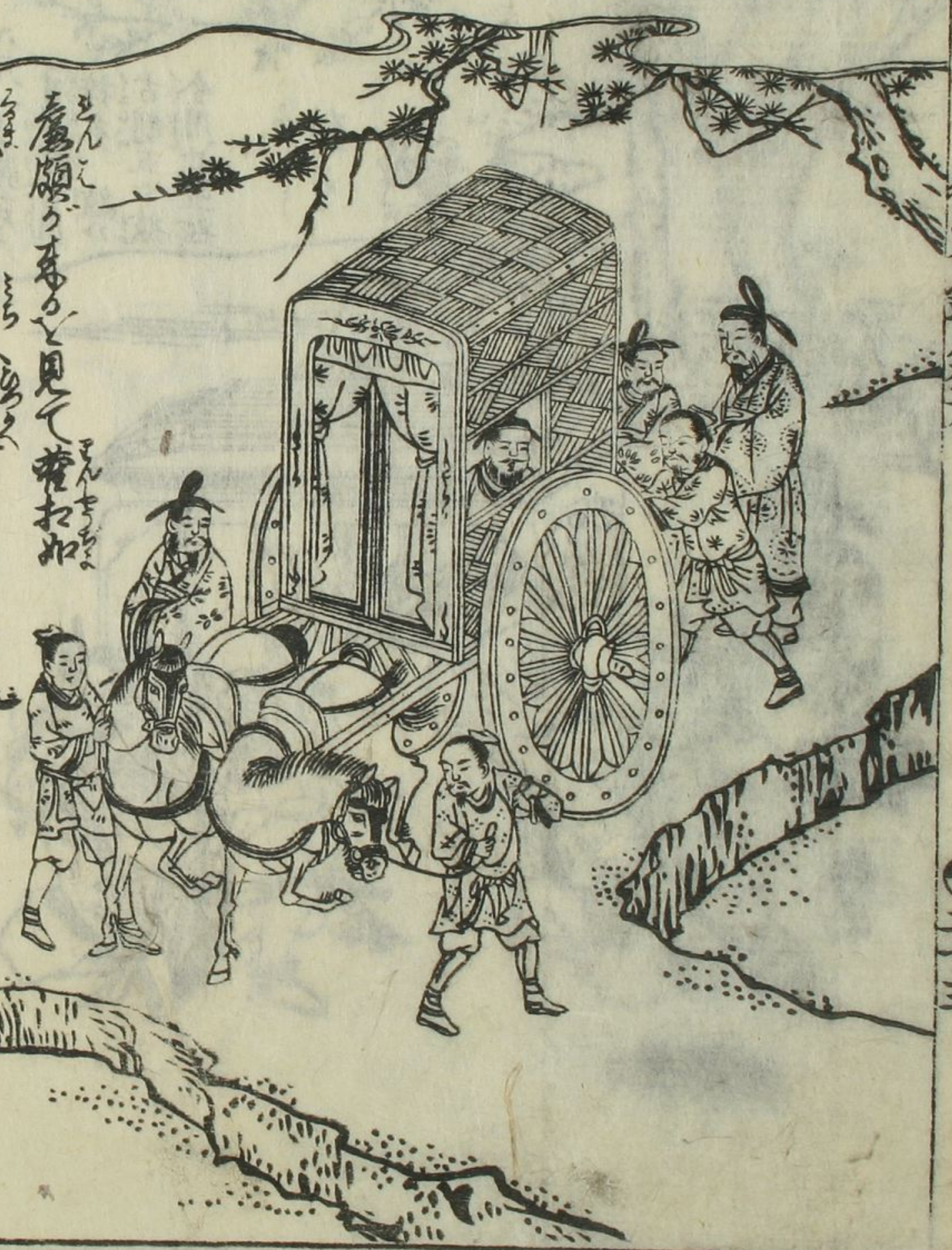


鏡

五



とん
倉願がまると見て
車成りたる人返と



辱しめんと葎おめりて家て心小会口と慶願明より
 毎よ葎おめり病と孫とて慶願と列とわつそのす二日葎
 おめり小慶願が事ふとんて車外引とて遊園を葎お
 如う家人の孫といふは昔事ふことゝ思ひが義我と
 慕うゆかり。今慶願と云とす小孫遊園を思ひ
 事れ喜しれ何ぞや葎おめりてこれ秦王に之悦せに
 そ思ふと辱しめたり。何ぞ今慶願と思ふや。あま
 強秦の兵と進ふくのさる慶願と我と云と云なり。今あ
 人冠ひ幸りてそ物ひとのふ死らん我うれどくさるのふ家
 の急と思ふ事私のおと後ふりなりと慶願を思ひ人
 ばてたよ漸葎おめり小孫り自らさるわりの教とあ
 て飛と謝し遊よおともぬらんで生死と思ひくさるの
 まどりのとるせり

早稲田大学図書館

011688993417